

東北教区報 2023年8月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>シリーズ「東北の信徒への手紙」
神さまの中で休みを探す

司祭 ドミニコ 李 賛熙



私は子どもの頃から、注射が怖くて病院に行くのがとても嫌でした。できれば病院に行かないようにしました。ところが今は両親のがん治療をしている様子を見ながら、病院での定期的な検査や、早めの治療の重要性を感じています。

人は体が病気になったら病院に行きます。歯が痛むと歯科に、お腹が痛くなれば内科を探するなど、体の部位によって様々な診察や治療を受けます。しかし、心と魂が病気になっただけに行くべきで

でしょうか？皆さんは心が痛くなったらどこに行きますか？心が痛くなったときにどこを訪れるかは非常に重要な問題です。心の病気がすべての病気の源という言葉があるように、人は心が痛むと体が痛くなります。病院に行ってみて、医師は異常がないと診断しても、本人は病気だと言います。心に病気ができたのです。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」(マタイ11:28-29)

イエス様はあなたを休ませてくださり、また私たちがどれほど苦労しているのかを知っているのです、自分の所に来れば、安息を味わえると言われます。

では神様のもとに行くとは何を意味するのでしょいか。それは神様の中で考え、神様の中で休むという意味です。神様に会う方法は聖書にあるように、まさに「祈り」を通してです。旧約聖書の預言者は祈りを通して神様に会いました。「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、主よ。あなただけが地上のすべての王国の神であり、あなたこそ天と地をお造りになった方です。」(列王記下19:15)

ユダ王ヒゼキヤがアッシリアの攻撃の前で神に捧げた祈りです。このような告白は、旧約聖書でよく見られる言葉です。イエス・キリストも神様のご意志を絶えず受け入れ、確認し、実行される時、人里離れた所に行つて祈られました。「朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。」(マルコ1:35)

それが神様の中で休んで、神様の中で道を模索する最も賢い方法です。最も賢い道は真の真理である神様に会ふことです。「わたしのもとに来なさい」と言われたイエス・キリストのみ言葉に従うのです。そのみ言葉の力は、今でも一貫して私たちを捉えています。今日もイエス様は「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」と私たちを呼んでおられます。どんな医者も治療できないすべての痛みをイエス・キリストは治療してください。これは二千年前の話ではなく、主イエス・キリストの中で休む人なら誰でも体験できる、今も起きている奇跡です。

神様を知っている人は毎回奇跡を体験します。しかし、神様を知らない人は、昔の物語の中のイエス・キリストのみを覚えています。真の休みは神様を見つけることです。

東北教区の皆様、皆様の教会で祈りを通して神様を探してください。また自然の中で神様に出会うことを望むなら、十和田湖畔にあるヴァイアル山荘を利用してください。自然の中で静かに祈り、沈黙の中で黙想し、私たちに真の休みをくださる神様と出会う経験をしてください。

(弘前昇天教会牧師)



北海道教区

クララ 吉谷かおる

東北教区・北海道教区宣教協働タスクフォース「チーム北国」の活動について、これから隔月で、両教区の教区報に共通の記事によって報告をさせていただきます。

3月の本格始動の後、仙台基督教会と札幌キリスト教会を、メンバーが互いに訪問しあって、2回のミーティングが行われました。

第2回ミーティング（4月28日仙台）では、前回作成した向こう5年間の活動計画を示す「ロードマップ」に基づいて、初年度のテーマ「出会い」のためのアイデアを出し合い、説教者交換、合同のキャンプ、合同教役者会等の

実施の可能性を探りました。広報についても検討しました。

第3回ミーティング（5月25日札幌）では、両教区が資料を持ち寄り、それぞれの教勢、財政、組織、年間計画などについて情報を共有し、共通点や相違点について理解を深めました。具体的な宣教協働の機会や方法については、順次ご案内していきます。

この間すでに、4月22日の東北教区主教按手式には笹森田鶴主教が、5月20日の北海道教区礼拝には長谷川清純主教が、それぞれ説教者に招かれるといったかたちの交流も進んでいます。長谷川主教は5月の北海道教区春季教役者会でも、両教区の課題の共有につながるお話をしてくださいました。

実際にその地に足を運ぶこと、顔を合わせ、言葉をかわすことで距離が縮まり、協働の楽しさが実感されます。信徒、教役者が出会う機会を数多く設けて、交わりの輪を広げていきたいものです。

今後は6月29日に仙台で第4回、7月17日に札幌で第5回のミーティングが行われる予定です。

宣教協議会プログラム

私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである。

（ヨハネによる福音書15…5 宣教協議会主題聖句）

一昨年、全国の教会、関連施設・団体、教区、管区諸委員会にアンケートを配布し、2012年以降にそれぞれの場で取り組んでこられた働きについてお聞きしました。

「み言葉に聴き、伝えること」「世界、社会の必要に応え仕えること」「生活の中で福音を具体的に証しすること」「祈り、礼拝すること」「主にある交わり、共同体となること」「教会の5要素」から



それらを見える形で宣教協議会に持ち寄ってみようという意図から、各教区・教会等

による「実り持ち寄りブース」が計画され、11月に清里に集まる参加者の皆さんを通じて準備をお願いしています。ローカルに立つ教会の、今あるものを集合させることによって見えてくるものは何でしょうか。今回の宣教協議会はそのから出発となります。

3つの小さい教会の話を聴くプログラム「私たちのあゆみ」物語を聴く」も予定されています。沖縄県の屋我地聖ルカ教会、長崎県の厳原聖ヨハネ教会、秋田県の大館聖パウロ教会がご協力くださることになりました。

昨年開催された「ぶどうの枝協議会」では、宣教協議会で、地域や社会で出会う人と共に歩み、生きる働きに焦点を当てることが提案されました。プログラムとしてどのよ

うに考えられるか検討を重ねた結果、「命の現場から聴く」パネルディスカッションと分科会が計画されています。パネリストの紹介は宣教協議会ブログの「管区事務所だより4月号」から見ることができます。

3月～5月には、祈祷書改正委員会、女性デスク・ジェンダープロジェクト、主教会と「ぶどうの枝分科会」を開きました。日本聖公会の取り組みや課題に目を向け、変革への展望と未来を見据えるためのプログラムは宣教協議会のもう一つの柱となります。これらは現在、実行委員会で詰められています。

いつも私たちの真ん中に「ぶどうの木」であるイエス様を見つめながら、11月に向けての準備の過程が、皆さんと共に歩む宣教協議会、清里への道のりとなるようにと願っています。

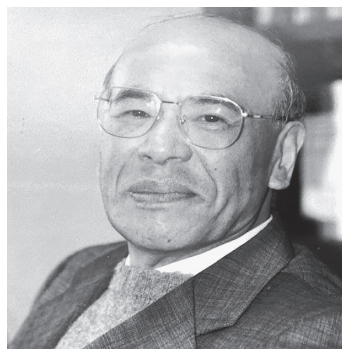


↑
宣教協議会スタッフ
ブログはこちらから

追悼 ヨハネ 斉藤政信司祭

「ありがとう 政信司祭さま」

主教 ヨハネ 佐藤 忠男



ヨハネ斉藤政信司祭さんは去る5月12日、91年のご生涯を終えられて神さまのみ許に召されました。喜びも悲しみも分かち合いながら、宣教の旅路を共にしてきた政信司祭さんとの別れは寂しいばかりです。

政信司祭さんは、米国の神学校留学を終えて帰国して間もなく、東北教区と米国聖公会ルイジアナ教区との交流の道筋を整えることに尽力されました。忘れ難いことです。お元氣な司祭さんでしたが、その晩年は病との闘いでした。ガンバリ屋の司祭さんは定年

後、独りギリシャ語聖書の研究に情熱を傾注しておられました。お互い甲論乙駁の時もありましたが、それだけに豊かな人生だったと感謝しています。しかし得難い友を失った今、深い感慨にふけるばかりです。

人間誰しも此の世に生を享けた瞬間から死に向かつて歩きつづける旅人であることに納得しながらも、しかし、寂しさがつのります。李白の詩の一節に「衆鳥高く飛んで尽き、孤雲独り去つて閑なり」があります。既に卒寿に入つて同年代の友が少なくなつてしまった私には、この一節は心に沁みるばかりです。ドイツの叙事詩に「ボヘミアの農夫」があります。これは、一人の農夫が最愛の妻マルガレーテを死に依つて奪われてしまったので、死に対して「全人類の虐殺者である死よ、呪われよ！」と叫んで死

に向かつて猛烈な非難を浴びせますが、これに対して死は農夫に「お前の妻は確かに美しいし徳に満ちて優しいが、これは死を免れる条件にはならないのだ。」と言います。これを聞いた農夫は「死よ、お前には慈悲は、かけらもないのか。有るのは呪いだけなのか。」と詰め寄ると、死は言葉を荒らげて「愚か者よ、死を嘆き悲しむのは愚かなことだ。姿かたちの美しさなどは直ぐに消えてしまうもの。二度と再び返ることのない失つたものを嘆くのは止めるがよい。」と悲しみに暮れる農夫に語りますが、この様子を見ていた神さまが「人間は誰でも自分の命を死に与える義務を、肉体は大地に帰する義務を、霊魂は神に与える義務を負っている。」と語つて肉はその弱さのゆえに憐れいものでも、神との絆の中で永遠の命に繋げられていくことを教えます。

ヨハネ斉藤政信司祭さま、安らかにお休みください。ご家族皆さまの上に豊かな主の慰めをお祈り申し上げます。

主教コラム



先月、主教就任後一カ月余、本当に目まぐるしい日々でしたと書きましたが、二カ月目ももっとでした。この間、お二人の方が天の主の御許に召されました。八戸聖ルカ教会と青森聖アンデレ教会で、6月26日から29日まで4日間連続の葬儀になりました。

ヨハネ佐藤真実司祭は6月24日ご逝去されて、26日通夜の祈り、27日葬送式が八戸聖ルカ教会にて営まれました。真実司祭は70歳定年退職の前年2008年4月に、2度目となる八戸聖ルカ教会に赴任されました。退職後は嘱託聖職で2016年まで務められ、その後2年は礼拝協力をされていました。

真実司祭が退職後暮らし、奉仕する場所として八戸を選ばれたのは、もちろん愛着があったからでしょうし、何よりも信徒の皆さんと一緒にいたかったとの思いが強かったからではなかったかなと推察

します。つまり八戸聖ルカ教会は司祭に愛された教会です。他方、信徒たちもまた司祭を敬愛されていました。葬儀を営むに当たり、20人弱の信徒の皆様方がほんとうにご尽力をされました。全員が最善を尽くしご奉仕されておりました。例えば通夜の祈りの前に、祭壇を覆い尽くしているスタンド花の並び方一つにしても気にされて動かしていただきました。受付や司会等々役目を分担している各人が、気温が高くなつてとても暑い中で汗を拭きながらも、心を込めて取り組まれているのを見て、私は感謝でございました。

2011年3月23日に、最愛のお連れ合いの百合子さんに先立たれ、晩年には闘病生活となつた司祭を見守り支えられた信徒のみなさまには本当に頭が下がります。心からの感謝しかありません。

教役者の終の住処は人それぞれでしょうが、もしあまりご迷惑をかけずに、愛する人々と礼拝と信仰の語らいで暮らせたら、最高に幸せなことだと思わされたのでした。

(教区主教)



能代キリスト教会

4月、新しく渡部拓司祭が赴任され、復活日の礼拝でスタートした。長い間自宅療養を余儀なくされていた越中兄が、礼拝に顔を出すようになった。さらに、重鎮の北嶋姉が一時施設に入所したが、帰って来てくれた。今年も、地域との繋がりを大切にしていこうと教会ホールを積極的に貸出し、町内会の会議や音楽愛好グループ虹の音サロンに、礼拝堂はコンサートにも活用している。

西の平聖パウロミッシェン

11月26日に閉所のための礼拝が行われることが決まり、片付けを始めました。

跡地の利用をどうするのか、出来れば、西の平聖パウロミッシェンがこの地にあったことを何とか残せないか八木司祭様と一緒に考えています。60年余りをこの地で過ごした歴代の信徒にも思いを馳せ、

残る日々の礼拝を大切にしていきたいです。

仙台聖フランシス教会

6月24日、仙台基督教会と仙台聖フランシス教会両日曜学校の合同野外礼拝を行いました。仙台聖フランシス教会からはど近い森林公園に子どもと保護者、スタッフ合わせ総勢80人を超える人数で礼拝を献げました。緑に囲まれながら「そらのとり」を歌い、「世界の平和」のために祈り、一緒にゲームをし、楽しい時間を過ごしました。何より、みんなの笑顔を見ながらお弁当を食べられたことが嬉しかったです。これらの恵みに感謝します。

郡山聖ペテロ聖パウロ教会

郡山では4月から日曜学校の在り方を変え、これまでの隔週での開催を月1回に集約し、一年間のスケジュールと礼拝、お楽しみ時間の内容を年度最初にPRを含めて配布共有しました。5月は5人、6月は6人と徐々に出席する子どもたちも増えてきています。5月と6月は教会の畑で野菜の植え付けを実施、ミニ

トマト、ナス、キュウリ、ピーマンが生り始めました。7月はシャボン玉大会を企画しています。

東日本大震災被災者支援プロジェクト報告

6月24日、プロジェクトメンバー5名は、被災地ツアー・モデルコース見直しの一環として、視察研修を行いました。13年目を迎えた被災地の現況を、メンバー自身が把握しておくためです。今回の視察地は一日で回れる仙台近郊の閑上地区と荒浜地区を選定しました。

◆閑上小塚原地区…震災遺構となった特別養護老人ホームでは、施設での避難の難しさを実感。◆名取市震災メモリアル公園…8.4mの津波の高さを実感、過去の教訓を学ぶ。祈りを献げた。◆名取市復興伝承館…震災以前の俯瞰ジオラマを見る。防災展示コーナーでは水深30cmの水圧下でのドアの開閉、歩行が不可能な状態を体験。◆仙台市荒浜地区…震災遺構「荒浜小学校」訪問。高さ7.2mの新設堤防から遥かなる大洋を臨む。
詳しい報告は「2023.6.

24閑上地区・荒浜地区視察記」として纏め、プロジェクトホームページに掲載します。どうぞご覧ください。

(リーダー 浅原 和裕)

常置委員会報告 (第9回・6月19日)

報告事項▼主教報告…動静と今後の予定について。大田教区主教選挙の結果、テトスキム ホウク司祭が当選された。東北教区教役者会を、8月1日・2日、盛岡とつなぎ温泉を会場にして開催予定。ゲストに北海道教区主教笹森田鶴主教を迎え、チーム北国報告と北海道教区の紹介をしていただく。▼常置委員長報告…旧鶴岡聖公会と旧新庄聖マルコ教会・幼稚園の土地の売却状況について。秋田聖救主教会分担金問題について。
協議事項▼主事会議より提案した教区旅費ガソリン単価の見直しについて、東北6県で高価安定が続いている状況を鑑み、「1kmあたり16円」を11月30日まで延長することを承認。▼規則・規程の改正について、「教役者給与規程」「教区事務所職員給与規程」「業務組織および業務分掌規程」

「旅費規程」について規則・規程グループより示された改正案を基に協議し、加筆修正を加えて承認。

8月逝去者記念聖餐式

8月9日(水) 午前10時

於 主教座聖堂

司式・説教 長谷川清純 主教

伝道師 ルツ星 安代

1955年8月5日逝去

主教 サムエル 今井 正道

1983年8月12日逝去

司祭 John Cole McKim

1952年8月26日逝去

司祭 パウロ 関屋 正彦

1994年8月27日逝去

司祭 George C.L. Ross

2020年8月29日逝去

訃報

退職聖職・司祭 ヨハネ 佐藤真実師は、6月24日、逝去されました。同師の魂の平安をお祈りいたします。

8月6日(日)は「日本聖公会青年活動のための日」です。宣教の器となる青年たちの学びと活動を覚えて祈り、献金をお献げください。